

柏龍達注

かじりたま

イタリヤ文學者。

明治四十年十一月十一日千葉縣注

れ、昭和二十一年五月二十七日歿（九〇七一五六）。本名宜二。なよろ昭和二年

東京外國語學校卒。翌年からイタリヤ留學、滞在十餘年。十六年母校

教授、のち東京外事專門學校教授、東京外國語大學教授歴任。

著書「伊太利葉内」(昭和十五年十一月)、二十一年改造社)、「コフヤシ

ズモ研究」(合著・石田昌論、昭和十七年十月)、二十日イタリヤの友の

會)、コイタリヤの厚生運動「ドーボラザオーロ」(論、昭和十八年

五月)、二十五年(泰文堂)、コ世界の文學」(合著・中野好夫編、昭和一

十六年八月)、二十日毎日新聞社「毎日ライブラリー」(等)。

譯書、アンドレヤ・タヨッキ著「外科醫餘録」(昭和十六年九月十

一日改造社)、マシニエ・ザイザンテイ作「女人心情記」(附現代伊

大利短篇選集)「(昭和十七年五月十五日日本出版社「イタリヤ文化

選書」)、デヨザマンニ・パピーニ著「わがイタリヤ」(昭和十八年

二月一日高山書院)、U・シオーニ作「ナイル河の子」(昭和二十一

年十一月二十五日ドン・ボスコ社)、コッローデイ作「ポピノツキオ」

(昭和二十二年三月五日湘南書房「新日本少年少女選書」)、パピニ

著「キリストの生涯・前編」(昭和二十二年二月二十五日中央出版

社)、ボツカチオ作「デカメロン」(昭和二十二年八月二十日自

本評論社「世界古典文庫」)、フランシス・ヂヤム作「心の光」(昭

和二十二年九月二十日ドン・ボスコ社)、シルザイオ・パツリコ作

「我が獄中記」(昭和二十四年四月二十日中央出版社)、パピニ著

「わが最後の言葉」(昭和二十四年八月五日中央出版社)、マツテオ

「ブンデツロ作」南風流譚「ブンデ」(昭和二十四年八月十五日文京出版)、

「ゴッローディ作」ロビンツキオ」(昭和二十五年十月)二十五日岩波書店  
「岩波文庫」)、A・モラザイア作「夫婦愛」(昭和二十六年十一月  
十日國運出版社)、デ・ヤミーンチス作「クオレ」全二冊(上・昭和二十  
十七年九月五日、下・十月五日岩波書店「岩波文庫」)、ヤンドレヤ  
マヨッキ著「外科醫の生涯」(昭和二十八年四月五日筑摩書房)、ポ  
ツカッチョ作「デカメロン」全十冊(一・昭和二十九年九月十日、二  
・十月二十日、三・二十年二月二十日、四・二十一年二月二十日、五  
・五月二十五日、六・十一月十日、七・二十二年一月二十日、八・二  
月二十八日、九・十一月五日新潮社「新潮文庫」)、デ・ヤミーンチ  
ス作「クオレ」愛の学校」(昭和二十二年十一月二十日筑摩書房)等。